

平成 29 年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第 8 回議事録（要旨）

日 時：3 月 27 日（火）午後 6：15～

会 場：かたらいの道市民スペース

出席者：委員 11 名（深田委員、吉田委員、植村委員、牛田委員、中里委員、
中島委員、北山委員、島津委員、小餅委員、柴田委員、高木委員）

事務局 3 名

1 開会

2 議題

（1）平成 30 年度憲法月間記念行事について【資料 1】

・事務局より作品応募状況と講演会について説明。絵手紙の実行委員会賞の選定。

【委 員】（実行委員会賞の選定は）絵手紙のみか。

【事務局】絵手紙のみ。

（2）一年間を振り返って【資料 2】

・事務局より平成 29 年度平和啓発事業について説明。

【副委員長】感想などある方はお願いします。

【委 員】なぜ青少年を広島には派遣しないのか。たまには広島に行ってほしい。

【事務局】特に長崎にこだわっているというわけではない。

【委 員】被爆体験は広島もしているのだから、次は広島にしてほしい。

【事務局】次回検討する。

【委 員】平和の日イベントの青少年の報告会が素晴らしかった。

【委 員】アトレとの十分な打合せができなかった。青少年派遣は来年行わないということだが、毎年やったほうがいいのではないか。また、武蔵野市の空襲体験者の証言を聞いたり話したりする行事がない。記録として残し、活用してほしい。

【委 員】歴史館の人が話をしてくれたが、インパクトが足りない。長くなってもいいから、みんなが耳を傾けてくれるような話をしてほしい。中島があったということを知っている人が少ない。

【委 員】アトレとのコラボは今までにない試みだったからよかったと思う。続けてほしい。

【委 員】コミセンでやっているミニパネルについて、写真をもう少し大きくしてほしい。

【委 員】地元に着したコーナーがあるのが大切だ。戦争体験や不発弾について、全部を知っている人はなかなかいないが、色々な人から少しずつ話を聞けばまとまるのではないか。

【委 員】戦争当時若かった人は疎開していたからこのあたりにいなかった。それより上の人は亡くなっている。疎開先から帰ってきてても状況がわからなかった人が、他の人から話を聞いてわかったようになっている場合も多い。

- 【委員】新しい勉強をできていい機会だったと思う。
- 【委員】平和には興味があったが、地域のことを知らなかったので知れてよかった。戦争のことなど知れば興味を持つと思うがみんな知らない。地域のことならリアリティを持って知ることができるのではないか。イベントの告知をもっと周知してほしい。
- 【委員】11月の「遠くて近い戦争」というのが印象的だった。毎年5月の憲法月間では充実した会だったと思う。憲法は9条だけでなく個を尊重することが基礎にあるということを知って非常に有益だった。武蔵野市の中でも空襲から近いところと遠いところがあり、戦争に対する認識が違う。この戦争はアメリカとの関係で起こり、アジアとの関係で起こった。地元の被害と世界全体の戦争被害を考えると戦争というものが具体的にわかるのではないか。
- 【委員】平和実行委員会は実行部隊であるということで、荷が重いというのが率直な感想。自分にできることはやりたい。現場に行くと身近に感じる。戦争を体験した人は実感を持って話すことができると感じた。
- 【委員】戦争自体には興味がなかったが、この実行委員会に参加して少し変わった。コミセンで戦争当時の写真を毎年出している。また機会があったらコミセンでもやりたい。
- 【事務局】若い年代が武蔵野市で起きたことを知ってそれを伝えて、戦争を知らない世代でもどういうものだったか知ることができればいい。この会はその役割を担う会だと思うので携われてよかった。
- 【事務局】今年は多くの指摘をいただいた。来年もいろいろ手法をみなさんと相談しながらやっていきたい。
- 【事務局】長崎への派遣に一緒に行って、実際に空気を吸って、子どものときにそういうことを見聞きするのは大事だと感じた。小さいときに聞いて忘れかけていたことが、この委員会で改めて思い出して非常によかった。地元のことが戦争とつながるといえるのは大切。戦争というと敷居が高いという人もいるが、周知をしていくことが大事。

(3) 連絡事項【資料3】

①謝礼の支払い手続きについて

- ・事務局より謝礼の支払い手続きについて説明。

②感想文の提出について

- ・事務局より一年間の感想文の提出について説明。

(4) その他

- ・事務局より平和説明案内板の延命寺設置について説明。
- ・委員より戦争と動物のかかわりについて説明。
- ・委員よりイベントの提案。
- ・委員より議事録の誤りについて指摘。

3 閉会